

平成22年度第2回農林総合研究センター課題内部評価結果（事前評価）

- 1 評価実施組織 農林水産技術推進会議農林部会
 2 評価方法 農林水産部所管試験研究評価実施要領に準じる
 3 評価の経過 各専門分科会で協議し、農林水産技術推進会議農林部会に報告・承認
 4 評価区分 事前評価
 5 総合評価 「採択した方がよい」、「部分的に検討する必要がある」、「採択すべきでない」の3区分
 「部分的に検討する必要がある」、「採択すべきでない」と評価された課題は「所見・指摘事項等」と「指摘事項等に対する対応」を記載
 6 評価結果と対応 下記の通り

課題No.	研究課題名 大課題 中課題 小課題 細目課題	研究期間	研究概要	総合評価	主な所見・指摘事項等	主な指摘事項等に対する対応
1	果樹の新品種育成と導入・選定	H23～27	本県のビワは、生産額が10億円で全国2位の特産果樹である。本県産ビワは大果で外観品質に優れる特徴があるが、生産者からは既存品種の特性をさらに上回る新品種の育成が要望されている。先行課題で選抜された中～大果で良食味の12個体の中から、より大果で果面に障害が出にくく、露地栽培では耐寒性を、施設栽培では早熟性を重視した選抜を行い、新品種を育成する。新品種が産地に導入されることで、産地振興が図られる。	採択した方がよい		
	常緑果樹の新品種育成					
	大果で外観美しいビワ新品種の育成					
2	農業の環境負荷軽減化技術の開発	H23～25	千葉県は「千葉県有機農業推進計画」を策定している。有機栽培では施肥をすべて有機質資材により行うが、その肥料の効果を把握して適切な施用量を決定することに関する県内有機農業者の関心は高い。そこで、県内有機野菜生産者が施用する主な有機質資材を対象に、化学的分析及び圃場埋設試験により窒素肥効を評価する。これにより施用有機物中の肥料的效果を持つ窒素の割合を明らかにし、適切な施用量の決定に資する。	採択した方がよい		
	有機農業技術の調査及び解析					
	有機栽培における施用有機物の肥料的效果の評価					
3	農業の環境負荷軽減化技術の開発	H23～25	千葉県が平成22年度に策定した「千葉県有機農業推進計画」を推進するため、水稻有機栽培農家から求められている耕種の雑草防除法を組み合わせた実証試験を行う必要がある。そこで、秋耕、代かきの時期と回数及び中耕除草を組み合わせた雑草防除を中心として実証する。本研究の成果を、千葉県が主催する有機農業者技術交流会等で水稻有機栽培農家へ情報提供することにより、有機農業の適切な推進が可能になる。	採択した方がよい		
	有機農業技術の調査及び解析					
	水稻の有機栽培の実証					

課題 No.	研究課題名 大課題 中課題 小課題 細目課題	研究 期間	研究概要	総合評価	主な所 見・指摘 事項等	主な指 摘等 に対する 対応
4	農業経営分析手法の開発及び技術と経営の評価 実用的な経営診断手法の開発 ナシ改植に関する意思決定支援システムの開発	H23～25	幸水の老木化に対処するため、一挙改植を前提としたナシ改植に関する意思決定システムを開発した（平成19～22年）。これに対して、現地からは「改植漸次縮伐」方式への対応など、より柔軟なシステムが求められている。そこで、改植時期、改植方法などの条件を考慮し、現地の実情に合わせた収量予測法を明らかにして、老木園の改植推進に貢献可能なシステムを開発する。	採択した方がよい		
5	千葉県の農業構造分析と地域営農システムの構築 千葉県における農業構造の分析 2010年における千葉県の農業構造とその変化の解明	H23～24	2010年センサス結果速報によれば、農業経営体、農業就業人口が減少する一方、大規模経営体の増加が目立っている。このような農業の構造変化を捉えて施策に生かすため、2010年センサス結果を旧市区町村単位の組み合わせで集計し、多変量解析などを用いて地域の特徴を明らかにする。同時に、2005年以前のデータと合わせて経時的変化の分析を行う。これらの知見を基に、地域別の振興方策の策定に必要な情報を整理して提示する。	採択した方がよい		
6	千葉県の農業構造分析と地域営農システムの構築 水田農業経営体の成立要因の解明 圃場条件に対応した作業管理手法の解明	H23～25	水田農業において、地域の圃場整備水準、圃場の分散などの圃場条件が、技術選択、作業効率などの生産性に与える影響を明らかにする。その上で、圃場条件に対応した技術選択、作業のチーム制などの働き方の工夫、自ら行う圃場条件の改善など、一連の対応方策を体系的に整理・論理化し、生産性を向上させる作業管理手法として提示する。	採択した方がよい		

課題No.	研究課題名 大課題 中課題 小課題 細目課題	研究期間	研究概要	総合評価	主な所見・指摘事項等	主な指摘等に対する対応
7	森林の病害虫対策技術の開発 スギ非赤枯性溝腐病対策技術の確立 スギ非赤枯性溝腐病の拡大防止に効果的な被害材処理技術の確立	H23～26	林地残材にスギ非赤枯性溝腐病菌の子実体が発生することが明らかになり、子実体から胞子が飛ばない処理方法及び新たに子実体が発生しない処理方法の確立が求められている。そこで、子実体の切除、チップ化、井桁積み、陽当たりの良い露地での集積等の効果を明らかにする。この成果により、本県の代表的な品種であるサンプスギ林でのスギ非赤枯性溝腐病の拡大防止に貢献する。	採択した方がよい		
8	森林の病虫害対策技術の開発 環境にやさしい松枯れ防止技術の開発 松くい虫防除のための無人ヘリコプターによる薬剤散布の効果の評価	H23～25	全国有数の海岸砂地を有する千葉県では、海岸防災上から前線クロマツ林の保全対策は欠くことができない。このため、クロマツ林には地上からの薬剤散布を実施しているが、散布できないエリアが点在し、このエリアを中心に松くい虫被害が拡大する危険性がある。そこで、無人ヘリコプターによる薬剤散布を検討しているが、導入にあたっては、薬剤飛散など周辺環境への配慮が重要となる。本研究では、近年開発された空気中の薬剤濃度の定量などによる周辺への薬剤飛散状況の評価とマツ枯損防止効果の検証から、総合的に無人ヘリコプターによる薬剤散布法について評価する。	採択した方がよい		